

特 116

12

國華大和櫻木

玉 州 段

双声  
双女

加島屋

加島屋

大坂唐物町四丁目

加島屋

本春子太夫  
豊澤新茶門

27  
35



始





あまのこころを  
うらみし道に  
あまのこころを  
いさめし  
あまのこころを  
あまのこころを  
あまのこころを

玉川村 一三

あまのこころを  
あまのこころを  
あまのこころを  
あまのこころを  
あまのこころを  
あまのこころを  
あまのこころを

我々の身は  
此の世に  
生かされ  
ぬれば  
我々の身は  
此の世に  
生かされ  
ぬれば  
我々の身は  
此の世に  
生かされ  
ぬれば  
我々の身は  
此の世に  
生かされ  
ぬれば

玉川むら  
三

我々の身は  
此の世に  
生かされ  
ぬれば  
我々の身は  
此の世に  
生かされ  
ぬれば  
我々の身は  
此の世に  
生かされ  
ぬれば  
我々の身は  
此の世に  
生かされ  
ぬれば

あはれなるはたけの  
あはれなるはたけの  
あはれなるはたけの  
あはれなるはたけの  
あはれなるはたけの

玉川むし 四

あはれなるはたけの  
あはれなるはたけの  
あはれなるはたけの  
あはれなるはたけの  
あはれなるはたけの

Handwritten Japanese calligraphy in cursive style (sōsho). The text is dense and fills most of the page. Some characters are annotated with small labels: '中' (middle) appears multiple times, and 'ねが' (hope) is visible near the bottom left.

玉川抄 五

Handwritten Japanese calligraphy in cursive style (sōsho). The text is dense and fills most of the page. Some characters are annotated with small labels: '上' (top) at the top right, '中' (middle) in several places, and 'ねが' (hope) near the bottom right.

対此しつゝあひま  
推されぬよあま  
又もあまの  
去かたにま  
あまのたへひまの

玉川むす 六

海かき大木を  
下へんあま  
あまのあま  
もたへんあま  
あまのあま

かきつゝはひの  
くまひのまの  
まをまのまの  
まをまのまの  
まをまのまの

玉川むら七

かきつゝはひの  
くまひのまの  
まをまのまの  
まをまのまの  
まをまのまの



の後集と押巻の  
 巻末の一人女  
 の巻末の一人女  
 の巻末の一人女  
 の巻末の一人女

の巻末の一人女  
 の巻末の一人女  
 の巻末の一人女  
 の巻末の一人女

玉川

かたはたかひのあはれ人  
もあはれにたはれぬ人  
先のひかへあはれを  
ひかへあはれを  
ひかへあはれを  
ひかへあはれを  
ひかへあはれを

玉川抄  
九

かたはたかひのあはれ人  
もあはれにたはれぬ人  
先のひかへあはれを  
ひかへあはれを  
ひかへあはれを  
ひかへあはれを  
ひかへあはれを

乃のたはる海にそはる  
のあのおしほふる  
中<sup>中</sup>あはれ<sup>あはれ</sup>あはれ  
あはれ<sup>あはれ</sup>あはれ<sup>あはれ</sup>  
<sup>2</sup>あはれ<sup>あはれ</sup>あはれ<sup>あはれ</sup>  
あはれ<sup>あはれ</sup>あはれ<sup>あはれ</sup>

玉川抄 十

のあのおしほふる  
あはれ<sup>あはれ</sup>あはれ<sup>あはれ</sup>  
あはれ<sup>あはれ</sup>あはれ<sup>あはれ</sup>  
あはれ<sup>あはれ</sup>あはれ<sup>あはれ</sup>  
あはれ<sup>あはれ</sup>あはれ<sup>あはれ</sup>  
あはれ<sup>あはれ</sup>あはれ<sup>あはれ</sup>

わつていあつてあつて  
ひるまゝの道へ  
海の上を流れてい  
かたの村のまはり  
記念碑のまはり

玉川抄 十一

下あつてあつてあつて  
まて下つてあつて  
あつてあつてあつて  
まてあつてあつて  
あつてあつてあつて

廣く日本大將の  
後心我提純命と  
し如く我が  
あつた丸を  
くさしておまを

の心と  
上  
あつた丸を  
くさしておまを  
あつた丸を  
くさしておまを  
あつた丸を  
くさしておまを

乃末のつたて  
乃末のつたて  
乃末のつたて  
乃末のつたて  
乃末のつたて  
乃末のつたて  
乃末のつたて  
乃末のつたて

五川抄 十三

乃末のつたて  
乃末のつたて  
乃末のつたて  
乃末のつたて  
乃末のつたて  
乃末のつたて  
乃末のつたて  
乃末のつたて

名々殊々女者  
 来々神々女者  
 く浪々心々女者  
 来々春々女者  
 来々花々女者  
 来々海々女者

父及女  
 日乃乃乃乃  
 月乃乃乃乃  
 乃乃乃乃乃  
 乃乃乃乃乃  
 乃乃乃乃乃

111  
 111





あまのこゝろのまはらば  
あまのこゝろのまはらば  
あまのこゝろのまはらば  
あまのこゝろのまはらば  
あまのこゝろのまはらば

玉川抄 十六

あまのこゝろのまはらば  
あまのこゝろのまはらば  
あまのこゝろのまはらば  
あまのこゝろのまはらば  
あまのこゝろのまはらば

わさみののちなまは  
 ぐさのこしあはれな  
 日蓮大いふつまの  
 手の中あまの敷  
 人達あつゝのて

玉川むろし十七

人かたむらさきつな  
 りまのあまの国お  
 角立あはれさ  
 ぐさの敷のたふあ  
 りまのあまの国お

玉川抄 十八  
あはれなる心希興念  
あはれなる心希興念  
あはれなる心希興念  
あはれなる心希興念  
あはれなる心希興念  
あはれなる心希興念

玉川抄 十八

あはれなる心希興念  
あはれなる心希興念  
あはれなる心希興念  
あはれなる心希興念  
あはれなる心希興念  
あはれなる心希興念



玉川の流るる水は  
神代の流るる水と  
さかすかに思はれど  
さかすかに思はれど  
さかすかに思はれど

玉川抄 二十

玉川の流るる水は  
神代の流るる水と  
さかすかに思はれど  
さかすかに思はれど  
さかすかに思はれど

後かたしから勿符ふ  
病よまらるるこころ  
まへかたしとあはれ  
かたしとあはれ  
まへかたしとあはれ  
まへかたしとあはれ

玉川抄 廿一

まへかたしとあはれ  
まへかたしとあはれ  
まへかたしとあはれ  
まへかたしとあはれ  
まへかたしとあはれ  
まへかたしとあはれ

秋の女のみつばし  
加らう天麩粉の道  
付海へさるる日我  
将軍の女侍の神の  
味かきひが天香の

玉川抄 廿二

女のみつばし  
女かき大和徳皇の着  
肉入かき力り  
一物もなきの物  
大なる海へ入地次

中  
心  
の  
痛  
み  
は  
心  
の  
中  
に  
生  
じ  
る  
と  
い  
ふ  
事  
は  
中  
に  
生  
じ  
る  
事  
の  
中  
に  
生  
じ  
る  
事  
の  
中  
に  
生  
じ  
る

中  
心  
の  
痛  
み  
は  
心  
の  
中  
に  
生  
じ  
る  
と  
い  
ふ  
事  
は  
中  
に  
生  
じ  
る  
事  
の  
中  
に  
生  
じ  
る  
事  
の  
中  
に  
生  
じ  
る

玉川  
井三



かきこもるいかに物  
くもるももるもる  
と物かたももるも  
くもるももるもる  
くもるももるもる

玉川抄 廿四

父さへももるもるの  
丸車場七列方  
おろしきももるも  
かかたももるもる  
かかたももるもる

わんわんの家屋を  
かかすのてんを  
かかすのてんを  
かかすのてんを  
かかすのてんを  
かかすのてんを  
かかすのてんを

玉川抄 廿五

あまのついでに  
あまのついでに  
あまのついでに  
あまのついでに  
あまのついでに  
あまのついでに  
あまのついでに

川の西の者踏らぬ心  
 威徳の年を越て  
 心徳の人の心  
 徳をわらう身入  
 のあまの道に  
 あり

五川抄 廿六

大なるもの徳を  
 用ひてはたす  
 徳を以て希冀  
 と智恵の深き者  
 徳を以て教ふ

将軍成七しんぐん 徳令とく 乃の  
和回わ 必ひ 傾かたむ けりの  
心こころ 海うみ 人ひと と 妻つま ありの  
ッ 道みち 後ご 妻つま 必ひ 必ひ 必ひ 必ひ  
交まじ りあ へり 交まじ りあ へり 交まじ りあ へり 交まじ りあ へり

五三〇一 廿

乃の 交まじ りあ へり 交まじ りあ へり 交まじ りあ へり 交まじ りあ へり  
心こころ 海うみ 人ひと と 妻つま ありの  
ッ 道みち 後ご 妻つま 必ひ 必ひ 必ひ 必ひ  
交まじ りあ へり 交まじ りあ へり 交まじ りあ へり 交まじ りあ へり

むきくわいひんじつ  
まじれむひの種  
老翁の碑七の海  
それくわいん  
かきねむるくわい

玉川わ  
廿八

そねむるくわい  
もの種くわい  
もの種くわい  
川のはな  
花の種くわい

川の舟は帆に吹かれ  
着た舟の衆は女貴  
凡て肉公の丸一の具  
とて焼く及此酒樽公  
あまの状は酒樽五

玉川抄 廿九

あまの舟は帆に吹かれ  
着た舟の衆は女貴  
凡て肉公の丸一の具  
とて焼く及此酒樽公  
あまの状は酒樽五

玉川のほとり  
たけなほの  
かきつばた  
のさかすかに  
あけぼの  
のうららかに  
あけぼの  
のうららかに  
あけぼの  
のうららかに

玉川抄 三十

あけぼの  
のうららかに  
あけぼの  
のうららかに  
あけぼの  
のうららかに  
あけぼの  
のうららかに  
あけぼの  
のうららかに  
あけぼの  
のうららかに

273  
35

不許復  
禁年新興行

大正貳年五月廿三日印刷  
大正貳年五月廿七日發行

兵洋絲川忠邦尚村次全  
著作 小野棟華

大坂市東區唐物町字目三番邸  
發行所 加島屋竹中清助

玉川抄 三十一

萬樂 筆下

玉川抄 三十一  
萬樂 筆下  
The main body of the page contains a dense arrangement of large, bold Japanese calligraphy characters in a cursive style. The characters are highly stylized and overlapping, typical of a 'shōshi' (draft) or a specific artistic calligraphic exercise. The text is arranged in several vertical columns, reading from right to left. Some characters are smaller and interspersed within the larger ones, possibly serving as annotations or specific markers within the calligraphic composition.



終

